

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○:イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。(×:カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 教会教育部

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

週課	第二年 第七課 第一週
単元	モーセ・2
テーマ	必要を満たしてくださる神さま
タイトル	マナ ー天から降るパンー
テキスト	出エジプト 16 章
参照箇所	出エジプト17:1-7
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	詩篇107:9
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下 3 巻 1 題 4 課、幼 2 巻 1 題 5 課
□導入 例 1: みなさんは、神さまがどんな方法で、イスラエルの民をエジプトから脱出させてくださったかおぼえていますね？(海を裂いて道をつくるという大きな奇跡のわざによって) 今日には約束の地カナンへの旅がはじまって、1ヶ月経ったころのお話です。人々は感謝と喜びでいっぱい、楽しい旅をしていたでしょうか？ 例 2: みなさんも、大勢で遠足に行ったことがありますね？遠足のとき、持って行くものは何ですか？(お弁当・おやつ・水筒など)。イスラエルの民は、約60万人で、およそ40年間旅をします。みんな40年分のお弁当をもっていたのでしょうか？それとも荒野には、レストランやコンビニがあったのでしょうか？	
□ポイント1 神さまは、イスラエルの民のつぶやきをきいてくださいました(1-12節) イスラエルの人々は、海を裂く道を渡った後は、大喜びでした。すばらしい奇跡をみて、神さまをほめたたえ、エジプトの苦しい生活から解放されたことを感謝していました。そして、乳と蜜の流れるカナンの地にいけることをとても喜んでいました。雲の柱の導きを信頼して、約束の地を目指して歩きました。しかし、荒野の旅は非常に厳しいものでした。ギラギラ照りつける太陽の下を歩き続け、しかもろくに食べ物もありません。エジプトを出て1ヶ月ほどたったころです。イスラエルの民は、とても疲れてきました。そして、人々は、食べ物のことにつぶやき始めました。いつの間にか、感謝と信頼の気持ちを忘れてしまったのです。人々はモーセとアロンにイライラして不満を言いました。「エジプトにいれば、肉でもパンでもたっぷり食べられたのに、荒野では食べるものがひとつもないじゃないか！」「やい、モーセとアロン！俺たちをエジプトから連れ出して、飢え死にさせる気か！こんな苦しい旅をするくらいなら、エジプトで死んでいた方が良かったぞ！」 そのつぶやきを、神さまが聞いてくださいました。人々は、神さまがしてくださった親切やミラクルを忘れて不平不満を言ったのに、神さまは、なんと哀れみ深いことでしょう。彼らがお腹をすかせないように、「毎朝パンを天から降らせ、夕方には肉を与える」と言ってくださいました。	
☞ 人々はモーセとアロンにつぶやきましたが、聞いてくださったのは神さまです。	
□ポイント2 神さまは、天からマナを降らせてくださいました(13-18) でもどうやって、神さまはパンと肉を与えてくださるのでしょうか(イスラエルの民は60万人以上です)。なんと、夕方になると、宿営(イスラエルの民がテントを張って滞在している場所)を覆うほどに、うずらが飛んできました。彼らが、集まってきたうずらをつまんで、その肉を食べることができました。人々は、このおいしいごちそうを、喜んで食べました。 朝になると、今度はテントのまわり一面に露がおりました。その露が乾くと、何か不思議なものが現れました。白い色で、形はウロコのような小さなものです。イスラエル人は「これは何だろう。」と言いました。彼らはそれが何か知りませんでした。するとモーセが「これは主があなたがたに食物として与えてく	

ださったパンです。」と言いました。これがマナです。

人々は、それを集めて食べることができました。そこで、モーセは神さまの命令をみんなに伝えました。「みなさん、それぞれ、自分の家族が食べる分だけ、マナを集めなさい。ひとり1オメル(2.3 リットル)ずつです。」人々はそのとおりにしました。

☞ マナについて「…白く、その味は蜜を入れたせんべいのものであった」(出エジプト 16:31)。彼らは「それを集め、ひき臼でひくか、臼について、これをなべで煮て、パン菓子を作っていた。その味は、おいしいクリーム味のようであった」(民数記 11:8)。

□ポイント3 イスラエルの民はいつもマナを食べることができました(19-36)

神さまは、日ごとに必要なマナを与えてくださいました。モーセは、「だれも、それを、朝まで残しておいてはいけません。」と言いました。残しておく、虫がわき、臭くなりました。神さまは、毎朝みんなが食べる分を与えてくださいました。朝に集めなかった分は、昼になって暑くなると溶けてしまいました。

また、神さまは、6日目には2倍のマナをくださいました。なぜでしょう？それは、イスラエルの民が安息日をきちんと守れるようにするためです。なんと不思議なことに、6日目だけは、次の日になってもマナは腐りませんでした。そして、7日目の朝は、荒野を探しても、マナは降ってきませんでした。安息日を守ることは、とても大切なことでした。そのために神さまは、生活のこまかいところまで、配慮を行き届かせ、不思議な力で守ってくださったのです。

じつはこの後、イスラエルの民はカナンに着くまで40年も荒野をさまようことになります。その間ずっと、大勢のイスラエル人が、マナを食べることができました。

☞ 32～33節で神さまは、マナを保存するように命じられました。これは、あかしの箱(出エジプト25:10-22)が作られた後だと考えられます。それは、イスラエルの子孫がそれを見て、荒野で守ってくださった神さまの恵みを忘れないようにするためです。

□結論 神さまは荒野を旅する民にマナを与えてくださいました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1) 神さまがしてくださったこと、与えてくださっているものにいつも感謝しよう。

イスラエルの民は、数々のミラクルを、すっかり忘れてしまいました。本当に無事カナンに行けるのかどうか、神さまを信頼できなくなっていました。みなさんは、おもちゃを買ってもらったときだけ喜んでお父さんの言うことをきくの、しばらくたつと感謝を忘れてわがままになってしまうことはありませんか？神さまに、いつも感謝の心を忘れないようにしましょう。

みなさんも今までに、神さまの恵みをいっぱい体験したはずですよ。お祈りがきかれた経験もあるでしょう。それをいつも思い出して感謝しましょう。でも時には、不安になるときもありますね。しかしそんな時こそ、必要なものはいつも与えてくださる神さまを信頼しましょう。普段当たり前のようには与えられている、水や空気について考えてみよう。すべて神さまのミラクルです。神さまは私たちに必要なものを与えて、養ってくださるお方です。感謝しよう！

2) 不平不満を言う前に、神さまにお祈りしよう。心も体も満たされるよ。

神さまは天からパンを降らせることさえできるお方です。不平不満を言った人々さえあわれんで、40年もマナを与え続けました。周りの人に文句を言うより、そんなすばらしい愛の神さまを信頼して、何でもお祈りしよう。神さまがあなたに一番良いことをしてくださいます。神さまは、私たちが神さまを頼って生きることを喜んでくださいます。

マナは食べるパンでしたが、みことばは、命のパンです。神さまは、モノだけでなく、魂の飢え渴きを満たしてくださいます。みことばを与えて、私たちの心を元気にしてくださいます。文句を言いたくなったとき、みことばが与えられるように、祈って求めましょう！暗唱聖句をがんばろう！

教師ノート

週課	第二年 第七課 第二週
単元	モーセ・2
テーマ	大切なことを教えてくださる神さま
タイトル	十戒
テキスト	出エジプト記19:1-20:17
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) レビ22:31 or ヨハネ14:15 チャレンジできるお友だちは、十戒をぜんぶ覚えてみるのも良いでしょう。
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下3巻1題9課
□導入	<p>交通規則はなぜあるのでしょうか？おまわりさんは、意地悪するために、みんなを赤信号で待たせるのでしょうか？もちろん違います。事故にあわないように、ケガをしないように、みんなのために規則をつくってくれているのですね。今日は神さまが与えてくださった10の規則についてのお話です。</p>
□ポイント1 神さまは、十戒を告げる前に、準備をされました(19:1-15)	<p>イスラエルの民が、旅の途中、シナイ山のふもとの荒野でテントを張って生活していたときのことで、山の上で、神さまはモーセに言われました「あなたがたは、私がエジプトで行なったこと、イスラエルの民を守り導いたことを、その目を見た(だから私が全能の神、愛と真実に満ちた神であることは充分わかっているだろう)。もし、あなたがたが私との約束を守るなら、あなたがたは全世界の中で私の宝となる(どうですか、それができますか?)。」モーセがそれをみんなに伝えると、イスラエルの民は、「神さまの言うことを全部行ないます」と言いました。すると、神さまは言われました。「3日目(十戒を告げる日)に、民に直接語りかけます。その日のために用意をなさい。」その用意とは、身も心も聖めることです。服を洗うことによって、外側だけでなく、内側もキレイになるように祈って備えるのです。このように、罪(世のもの)と離れて、神さまのために特別に聖く分け備えられることを、聖別といいます。</p>
☞第3の月の新月の日:エジプトを出ておよそ50日目と考えられます。すなわち、過越から50日目ですので、新約ではペンテコステの日です。旧約の十戒が与えられた日と、新約の聖霊(新しい律法)が下った日は、予表関係にあると考えられています。	
☞わしの翼=わしは、強く、大きい翼で、速く飛ぶだけでなく、ひなをやさしく守り育てます。	
☞契約の民であるイスラエル人に言われていることは、クリスチャンに当てはめることができます 「宝」は、多くのコレクションの中でも、特別に大切な秘蔵品のようなイメージがある言葉。全人類の中で、イスラエルの民は特に大切な役割をします。「祭司の王国」とは、特別に神に仕える役割をする国民になるということです。「聖なる国民」とは、他のものとは分け備えられ、模範となる国民のことです。	
□ポイント2 神さまは10の戒めを語られました(19:16-20:17)	<p>3日目の朝になると、シナイ山の上に稲妻と雷鳴と濃い雲が現れ、角笛の大きな音が鳴り響きました。主が火の中にあって、山の上に降りて来られたので、シナイ山は煙で覆われ、山全体が激しく震えたと書いてあります。そして、神さまは10の教えを、イスラエルの民に直接語ってくださいました。</p>

⑩十戒のはじめの4つは、神さまと私たちの関係についての教えでした。

- 1)わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。エジプトからイスラエル人を救い出してくださった、ただひとりの主なる神さまだけを信じなさいということです。他の神は一つとしてあってはなりません。罪とは要するに神を神としないで生きることです。あなたが、他の何か(自分自身や人間の考えなど)を神さまより上にしてしまうなら、あなたはそれを神としていることとなります。いつも神さま(みことば)を第一に従いましょう。
- 2)偶像を造ってはならない。それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。自分のために像を造ってはいけません。それを礼拝してはいけません。神さまは創造主ですから、人間が神さまを造るのはおかしいですね。ですから、目に見えない主なる神さまを、目に見える像にすることもしてはいけません。これを守る人は、恵みが注がれます(申命記7:9、エゼキエル14:3)。
- 3)主の御名を、みだりに唱えてはならない。神さまのお名前を大切にしましょう。神さまの名前はヤハウェと知られていました。大切な神さまのお名前を、考えなしに、やたらと口に出して、軽々しく扱ったり、汚すようなことはやめましょう。
- 4)安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。天地創造の時、主は第7日目を祝福し休まれました。私たちも、その日を、賛美・感謝・礼拝をささげる安息日として守りましょう。これは、「主が命じられた」ことです(申命記5:12)。

⑩十戒の残りの6つは、人と人との関係についての教えでした。

- 5)あなたの父と母を敬え。お父さんお母さんを大切に、従いましょう。そうすれば、あなたは長生きできると書いてあります。子どもたちには大切な教えですので、しっかり教えたいところです。(子どもたちの家庭の事情には配慮が必要です)
- 6)殺してはならない。神さまから与えられた命はみんな大切です。世の中には、悪いことをした人やキライな人は死んでもいいという恐ろしい考えを持つ人もいますが、どんな理由があろうと、絶対に人の命を奪ってはいけません。イエスさまは、心の中で人のことを「死ね」と思うだけでも罪だと言われました。
- 7)姦淫してはならない。結婚を大切にしましょう。結婚相手だけを一生愛し続けましょう(離婚家庭や両親の結婚前に生まれたお友だちには、配慮が必要です。姦淫はもちろん罪ですが、私たちも他の罪を犯して赦されたのだから、教会のだれも離婚を裁くことはできないことなど、丁寧に伝えましょう。また、高学年のお友だちには、婚前の肉体関係は罪であることをしっかり教えましょう)。
- 8)盗んではならない。人の物やお店の物、落し物も、勝手に自分の物にしてはいけません。欲しいものは神さまにお祈りしましょう。
- 9)偽りの証言をしてはならない。うそをついてはいけません。どんなに自分にとって都合の悪いことでも、真実を正直に話しましょう。うそをつくとなんか信用してもらえなくなります。あなたがお友だちとよい関係を築くために神さまは真実で正直であることを教えてくださっているのです。
- 10)隣人の家を欲しがってはならない。心の中で、人の物を欲張って欲しがってはいけないという意味です(隣の家を盗まなければいいという話ではありません)。ねたみや貪欲の心が、殺人・強盗・姦淫などの原因となります。欲しいものがあつたら、神さまにお願いしましょう。

※教会の導きに応じて、すべての項目を説明するのではなく、どれか1つ(例えばあなたの父と母を敬え)を強調して、暗唱聖句にしても良いでしょう。

□結論 神さまはイスラエルの民に大切な10の戒めを与えられました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

喜んで、十戒を守りましょう！神さまを愛するなら、神さまの言うことを守りましょう！

神さまは私たちを愛しているからこそ、十戒を与えてくださいました。私たちを幸せにするための、みんなが守るべき基準を与えてくださったのです。みんなを苦しめるためではありません(交通ルールも同様です)。みんなの家族やお友だちが、十戒をやぶって、殺したり、盗んだりしていたらどうなりますか？逆に、みんなが十戒を守っていたら、仲良く助け合って、幸せに暮らせますね。

愛する神さまのことを、喜んで守りましょう。みなさんは、神さまを愛していますか？愛している人の言うことを無視して、相手のイヤがることをしたいと思うのでしょうか？(ヨハネ14:15)

律法は、良い子になって、良い行いをして、救われるためにするものではありません。神さまは律法を守れる人だけを愛してくださるのではなく、どんな罪人でも愛して下さるお方です。自分が律法を守っているからといって、いばったり、まもれない人を裁いてはいけません。イエスさまは、そのような律法学者を注意されました。

十戒を守るためには、自分のチカラでガンバるのではなく、聖霊さまに助けをもらうことが大切です(ローマ8:4)。喜んで十戒を守れるように、聖霊さまの助けを求めて祈りましょう。

教師ノート

週課	第二年 第七課 第三週
単元	モーセ・2
テーマ	ただひとりの神さま
タイトル	金の子牛
テキスト	出エジプト24:12-18、32:1-35
参照箇所	出エジプト20:22-23、33:1-6
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	申命記6:4 or 出エジプト20:3
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下 3 卷 1 題 8 課
□導入 みなさんは、約束を守りますか？破ってしまったことはありますか？イスラエルの民は、十戒を約束どおり守っているのでしょうか？	
□ポイント1 イスラエルの民は偶像をつくって礼拝してしまいました(24:12-18、32:1-6) ある日、神さまがモーセを呼ばれました。「山に登り、私のところに来なさい。イスラエルの民を教えるために、私が書きしるした教えと命令の石の板をあなたに授けよう。」そこで、モーセとヨシュアは山に登って行き、40日40夜の間、神さまからおきての石の板をいただくためにそこにいました。この40日の間に、神さまは、聖所(箱・贖いのふた・燭台・幕屋など)と祭司(装束や任務)に関する教えなどを与えてくださいました(25~31章)。そして、モーセは、神さまの指で書かれた「あかしの板」を授かりました。その間、モーセたちがなかなか帰ってこないで、待っている民は不安になりました。「モーセは山で死んだんじゃないのか？」とか「私たちを見捨ててどこかへ行ってしまったのかもしれない・・・」などと考えたでしょう。待ちきれなくなった民は、アロンにお願いをしました。(リーダーであるモーセが留守の間、代理役をしたのはアロンでした。) 「私たちを指導してくれたモーセは、もうどうなったのかわかりません。どうか、私たちを導いてくれる神さまを造ってください。」…しかしこれはとんでもなく大きな過ちです。神さまは、ただひとりです。私たちを造ってくださったお方です。それなのに、自分たちで他の神を造るなんて！ ところがアロンは、この願いを聞き入れてしまいます。「よろしい、ではあなた方が、エジプトから大切に持ってきた財産である、金の耳飾りはずして、私のところに集めなさい」と言いました。みんなが言うとおりにしたので、大量の金が集まりました。アロンはそれを溶かして、子牛の形を作りました。 ピカピカに輝く子牛を見て、人々は「これが私たちをエジプトから連れ出してくださった神さまだ」と喜びました。そして、アロンは、祭壇を作り、次の日にはお祭りをして、いけにえをささげました。彼らは、動けない作り物の牛を、偉大なる全知全能の神さまに代えて、礼拝したのです。人々は、祭壇の周りで、食べたり飲んだり、歌ったり踊ったり、大騒ぎをしました。彼らは、エジプトから救い出され、マナで養われ、十戒を与えられたことも忘れて、大きな罪を犯してしまいました。	
☞ 子牛＝牛は力と多産の象徴であることから、神のイメージとして、古代エジプトやその他の国で一般的でした。イスラエルの民も、エジプトで、そのような偶像的な文化の影響を受けたと推察できます。	
□ポイント2 神さまもモーセも怒りました(32:7-24) 神さまはモーセに「すぐ山から降りなさい。イスラエルの民は、墮落してしまったから。彼らは早くも、十戒を破って、ほかの神を造り、それを礼拝している。こんな言うことをきかないガンコな民は滅ぼしてしまい、モーセの子孫だけを、契約の民として祝福しよう」と言われました。 しかしモーセは、すぐに神さまになげいて願いました。「主よ。どうか、あなたの燃える怒りを静め、わ	

ざわい下すことを思い直してください。」すると、神さまは、あわれんで、モーセの願いを聞き入れてくださり、わざわざを下さないようにしてくださいました。

モーセは神さまに感謝して、山を降りました。そのとき、2枚のあかしの板を持っていました。その表と裏に、神さまが教えと命令を刻んでくださったものです。しかし、宿営に近づいて、子牛と踊りを見ると、モーセの怒りは燃え上がりました。手に持った板に書かれた教えを、まったく破る大罪を目の前にしたからです。彼はあかしの板を投げ捨て、砕いてしまいました。民が、神さまとの契約を、壊してしまったことを象徴するかのようです。モーセは、アロンたちが造った金の子牛を火で燃やし、さらに粉々に砕きました。それを水の上にまき散らして、イスラエル人に飲ませました。モーセはアロンに「あなたは、いったいどうして、こんな大きな罪を犯させたのですか！」と言いました。アロンは筋のとおらない言い訳しかできませんでした。

👉うなじのこわい＝強情な→左右に手綱を引いても、馬が首を向けず、言うことをきかない(首の後ろが硬い)様子から

□ポイント3 神さまは、罪を犯した人たちに、罰を与えられました(32:25-35)

モーセは「あなた方の中で、主に従っていく人はだれですか？その人は私のところに集まりなさい。」と言いました。するとレビ族の人が集まりました。モーセは彼らに、罪を犯した人たちを殺すように命じました。とても厳しい罰です。3000人が殺されるなんて、本当に恐ろしいことです。イスラエル人が、神さまとの特別な約束を破って、偶像を拝んだことは、それほど大きな罪だったのです。

翌日、モーセは自分が罰を受けて死ぬ代わりに、民の罪を赦してもらう覚悟で、神さまのところへ行きました。そして「彼らの罪をお赦しください。あなたの書物(裁きのときに救われる人の名前が書いてある)から、私の名を消し去っても構いません。ですから、代わりに、彼らを生かしてください」と言いました。すると神さまは「わたしに罪を犯した者はだれであれ、わたしの書物から消し去ろう」と言われました(罪を犯して悔い改めない人には、当然の報いがある、という意味です)。彼らの罪は、神さまとの関係の根底を壊すひどいものでしたので、大目に見る・見過ごすということはできなかったのです。

しかし、神さまは、みなを滅ぼすことはされず、約束の地への旅も、取り消しにはなりません。

※ここでは、罪を犯した人たちが罰を受けましたが、イエスさまを信じる人は、そのような罰を受けることはありません。なぜなら、罪の報酬は死ですが、その罰は、すべてイエスさまが私たちの身代わりになって受けてくださったからです。モーセはただの人間ですから、みんなの罪を赦すことはできませんでした。しかし、神の子キリストが、ご自身の命をあがないの代価としてささげてくださったことにより、全人類の全ての罪が赦されたのです。なんと大きな恵みでしょう！感謝して、もしまだ告白していない罪があるなら、お祈りをしましょう。素直に悔い改めるなら、全ての罪は赦されます。

□結論 ただ主だけを礼拝しましょう

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう) ただ主だけを礼拝しましょう

例1) 神さまだけを礼拝しましょう。神さまは、私たちが造ってくださった創り主で、なんでもできる神さまです。人に動かしてもらわないと動けない作り物の像ではありません。聖書の神さま以外の神々を礼拝したり、宗教に加わってはいけません。神さまのみことばにだけ従って祝福を受け続けましょう。あなたは金の子牛の像を造ったりはしないかも知れませんが、しかし、どんなものでも、あなたが神さまより大切にしまうもの(お金や恋愛や遊び)があれば、それは偶像を造ったのと同じことになります。いっぱい遊ぶこと、どんどんお金をためることは決して悪いことではありませんが、それが神さまのみことばより上位に来てしまっただけではいけません。いつも神さまを第1にしましょう！

例2) 神さまと約束したことは守りましょう。イスラエルの民は、十戒を守る約束をしてすぐに破ってしまいました。神さまの前に決心したことは、真実に守り続けましょう。絶対にスゴい祝福をくださるよ。

例3) モーセのように、とりなしの祈りをしよう。特に、他の神さま・宗教を信じている人を裁くのではなく、愛をこめて、とりなして祈ろう！

教師ノート

週課	第二年 第七課 第四週
単元	モーセ・2
テーマ	神さまを信じとおす信仰
タイトル	12人の斥候
テキスト	民数記13:1-14:34
参照箇所	申命記1:19-2:1
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	イザヤ41:10
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下 3 巻 1 題 12 課
□導入	
	シナイを出たイスラエルの民は、荒野の旅を続けていました。そしていよいよ、約束の地カナンまでもうあと少しというところまでやって来ました。
	☞ 斥候＝敵状・地形等の状況を偵察・搜索させるため、部隊から派遣する少数の兵士(広辞苑)
□ポイント1 12人の斥候が、カナンの地について調べ、報告しました(13章)	
	神さまがモーセにおっしゃいました。「12部族ごとにひとりずつ、斥候(敵の様子を探る人)を出して、カナンの地を調べさせなさい。」モーセは、神さまの言うとおりにしました。12人を集めて命じました。「カナンの様子を詳しく調べて報告しなさい。そこに住んでいる人々が強いかわい弱いかわ、人数はどれくらいかわ。また作物が育つのに良い土地か悪い土地か。町は宿営か城壁か。そして、その地のくだものを取って来なさい。」
	12人の斥候は、40日間かけて、カナンを偵察し、戻ってきました。ぶどうが1房ついた枝を2人が棒でかついで持ち帰りました。ざくろやいちじくもとりました。そして調べたことを、モーセとみんなに報告しました。まず、果物を見せて、「カナンは作物が豊かに育つ良い土地です。神さまが乳と蜜が流れる土地とおっしゃったのは本当です。」と言いました。巨大な果物を見て、話を聞いた民はうれしくなったことでしょう。斥候たちは、続けて報告しました。「しかし、その地に住む民は力強く、町々は城壁を持ち、体もとても大きくて、特に大きいアナク人までいました。アマレク人・ヘテ人・エブス人・エモリ人・カナン人が各地に住んでいます。」それを聞いて今度は逆に、人々は不安に陥りました。カナンの地に入っていくても、強い民族にコテンパンに打ちのめされてしまうと思ったからです。
	そのとき、斥候のひとりで、ユダ族の長カレブが言いました。「みなさん、落ち着きましょう。確かに、相手は強そうですが、必ず勝てます。勇気を出して攻めて行きましょう。」しかし、ほとんどの斥候は反対の意見を言いました。「無理に決まっているよ。あの強い民にはかないっこない。あの人の手にかかれれば、私たちはまるでイナゴを殺すように、簡単にやられてしまうだろう。」
□ポイント2 イスラエルの民は神さまの約束を信じるできませんでした(14:1-12)	
	イスラエルの人はみな、がっかりして、怖くて、ひと晩中大声で泣き叫びました。そしてモーセとアロンに対して文句を言い始めました。「なんで苦労してこんな所につれて来たんだよ。戦いで殺されるくらいなら、エジプトにいた方がましだったのに。」「そうだ、新しいリーダーをたてて、エジプトに帰ろう。」
	しかし、斥候のうち、ヨシュアとカレブだけは、神さまを信じ続けました。彼らは、人々に向かって言いました。「もし、私たちが御心にかなうなら、神さまが私たちをあの地に導き入れてくださるはずですよ。だから、ただ神さまを信じよう。神さまが私たちとともにいてくださるのですから、彼らを恐れる必要はありません。」ヨシュアとカレブは、今までに神さまがくださった恵みを、しっかりとおぼえていたのでしょう。そして、今度も必ず神さまが守ってくださると信じていたのです。しかし、人々は全くそのような信仰

をもつことができませんでした。それどころか、「家族が皆殺しになってもいいのか！」と、ヨシュアとカレブを、石で打ち殺そうとしました。

そのとき、神さまがモーセにおっしゃいました。「民はいつまで私を侮る(信頼しない・バカにする)のか。私は、民のために、たくさんの奇跡を見せたではないか。それなのに、まだ私を信じないのか。」カナンの人々を見て恐れ、文句ばかり言っているということは、神さまの力ではイスラエルの民を守ることができないと、神さまをバカにしているようなものです。それで神さまは怒っていらっしゃるのです。神さまは「疫病でイスラエル人を滅す」とおっしゃいました。不信仰な民に、とうとう罰が宣告されたのです。

□ポイント3 神さまは、民が荒野を40年の間さまようようにされました(14:13-34)

モーセは、民のためにとりなして、神さまにお願いしました。「神さま、あなたは、この民を祝福すると約束してくださったではありませんか。エジプトから今までも私たちを赦してくださったように、どうかこの民の罪を赦してください。あなたの大きな恵みを注いでください。」一生懸命お願いするモーセに応えて、神さまはイスラエルの民を滅ぼすことは、思いとどまってくさいました。

ただし、神さまの愛と力を侮った民の罪をただ見過ごすことはされませんでした。神さまを信じず、モーセに文句を言った人たちは、約束の地に入ることが許されなくなりました。エジプトから何度も神さまに守られ、奇跡を見ていながら、神さまを信頼せず、従わない罪は大きかったのです。主はあわれみ深く、恵み豊かなお方であると同時に、正しく罪を裁かれるお方です。

イスラエル人は、神さまに背き・反抗した報いとして、なんと40年も荒野をさまよい続けることとされました。彼らのうち20歳以上の人は、みなカナンに入る前に荒野で死ぬのです。ただし、神さまを信じとおしたカレブとヨシュアは、生きてカナンに入ることが許されました。

□結論 神さまが私たちとともにおられるので、恐れることはありません 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1)どんな状況にあっても、神さまを信じましょう。みなさんは、ヨシュアやカレブのように、たとえ悪い状況であっても、神さまを信じることができますか？それとも他の斥候やイスラエル人のように、状況が悪いと、恐れたり・文句を言ったり、あきらめたりしてしまいますか？スポーツでも勉強でも遊びでも、初めてチャレンジするときや、強い相手と戦うときは、不安になりますね。お友だちを教会にさそうとき・病気のとき・ピンチのとき・緊張するとき・運動会・テスト・発表会など、「どう考えても無理だ」と思うときこそ、信仰を持ちましょう。みこころならば、神さまが助けてくださいます。目に見える状況にまどわされず、神さまを信じよう。自分の力ががんばろうとするより、神さまの力に頼る方が、神さまに喜ばれます。自分たちの考えではどうしようもないときこそ、神さまに頼りましょう。

例2)神さまがともにいてくださるので、恐れなくて歩もう。みなさんは、まだ起こる前からいろんなことを心配していませんか？人に笑われたらどうしよう、失敗したらどうしよう・・・など不安になってしまいますね。いつも、神さまがともにいてくださいますから、恐れることはありません。イスラエルの民は、神さまが彼らをカナンに導くと約束してくださったのに、強そうな相手を見て、すっかり不安になってしまいました。ひとりぼっちのときでも、どんな困難や敵の前でも、恐れることはありません。人を恐れてビクビクする必要はありません。神さまの前に真実で、神さまを信じ続ける限り、絶対に神さまが守って、勝利を与えてくださいます。神さまは何でもできるし、一番強い、そしてあなたを最高に愛してくださるやさしいお方です。だから、神さま以外、何も恐れる必要がありません。不安で胸がいっぱいになったとき、みことばを思い出して、恐れるな！と勇気を出しましょう。

教師ノート

週課	第二年 第七課 第五週
単元	モーセ・2
テーマ	主を信じる者は救われる
タイトル	青銅のへび
テキスト	民数記21:4-9
参照箇所	ヨハネ3:14-15、Ⅱ列王記18:4、Iコリント10:9
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	イザヤ45:22
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下3巻1題13課、小上1巻2題1課

□導入

例:イスラエルの人々は、神さまを信頼しなかったため、40年間も荒野をさまようことになりましたね。みなさんのお父さんお母さんが生まれて今までで、だいたい40年くらいではないでしょうか。とっても長い年月ですね。「あの時、勇気を出してカナンに入っていれば、こんなに苦しい旅を続けなくてよかったのに・・・」「これからは、神さまを信じていこう・・・」と言いながら歩いたかもしれませんね。テントを張って休みながら、荒野の旅を続けました。

☞先週のテキスト(14章)から、今週のテキストまで、たくさんの重要なできごとがあります。安息日にたきぎを集めた人の死刑(15:32-36)、コラたちの反逆(16:1-35)、つぶやいた民への神罰(16:36-17:13)、ミリヤムの死(20:1)、メリバの水におけるモーセとアロンの罪(20:2-13)、アロンの死(20:22-29)など。メッセンジャーは、よく読んで、背景を理解しておきましょう。

□ポイント1 イスラエルの人々は、神さまとモーセに逆りました(4-6節)

イスラエルの民は、荒野を進んでいました。苦しい日が何日も続きました。荒野を歩くだけでも、人々は疲れていたでしょう。さらに、アロンの死という悲しいできごとや、戦争もありました。いつまでたっても、目的地につけないのは、自分たちのせいでしたが、だんだんイライラがたまってきました。そして、とうとう我慢ができなくなり、モーセに逆らって、文句を言いました。「なぜ、おいしい食べ物や飲み水がたくさんあったエジプトから、私たちを連れ出したのですか!? こんな荒野で苦しんで死ぬのはイヤだ。」また前と同じようにつぶやいてしまいました。それどころか、神さまが与えてくださったマナのことまで文句を言いました。「もう、マナには飽きてしまった。こんなみじめな食事だけで、やっつけられるか!」神さまが与えてくださっているマナを感謝することを忘れて、「みじめな食物」と言ってバカにし、つぶやくとは何ということでしょう。

そんなイスラエルの民に、神さまは、直ちに罰をお下しになりました。恐ろしい毒へびを送られたのです。へびは、あちらこちらに現れ、たくさんの人々に噛み付きました。「燃えるへび」というのは、噛まれたとき、燃えるように痛いという意味かもしれません。また、その毒で、噛まれた人は、体中が火で焼かれるような熱で苦しむようになるのかもしれません。いずれにしても、たいへん強い毒をもったへびでした。

それで、大勢の人が死んでしまいました。たいへんなことになりました。噛まれた人は、苦しんで、どんどん死んでいきます。

☞これまでは、罰を下す前に、神さまはモーセに語りかけてくださいました。しかし、今回は直ちにへびを送られました。

□ポイント2 イスラエルの人々は罪を認め、助けを求めました(7)

人々は、モーセのところに来て、助けを求めて言いました。「私たちは、罪を犯してしまいました。神さまとあなたに文句を言ってしまいました。反省しています。どうか、このヘビを私たちから取り去ってくださるように、神さまにいのってください。」

モーセは民のために祈りました。このときモーセがどんな気持ちだったかは、書いてありません。いつも同じ失敗を繰り返す民を見て、どう思ったでしょうか。民は、罪を犯したことを悔い改めました。しかし本当は、罰を見てはじめて気づくのではなく、自分から悔い改めるべきです。モーセはすぐに神さまに祈りました。

□ポイント3 青銅のヘビを見上げた人は救われました(8-9)

神さまは、すぐに祈りにこたえてくださいました。「あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上につけなさい。ヘビに噛まれた人はすべて、それを見上げれば、生きます。」

モーセは、神さまの言うとおりに、青銅でヘビの形を造りました。そして、それを旗ざおの上につけて、みんなに見えるように、高くかけました。

なんと不思議なことでしょう！ヘビに噛まれて苦しんでいる人でも、助けを求めてそのヘビを見上げると、治りました。青銅で作ったヘビを見上げるだけで、癒されたのです。神さまは、あわれみ深く、なんでもできるお方です。

📖 青銅＝銅と錫(すず)との合金。銅像はふつう青銅で作られます。

□結論 青銅のヘビを見上げた人は、罪の罰の死から救われました

私たちは、ただ信仰をもって、十字架のイエスさまを見上げることによって救われます。ヘビに噛まれて死ぬことは、神さまに逆らった罪への罰でした。しかし、旗ざおに上げられたヘビを見上げると、その罪の罰としての死から救われました。旧約聖書には、このようにイエスさまのことを、あらかじめあらわしているところ(予表)があります(過越を思い出しましょう)。イエスさまご自身も、ヨハネ福音書3章16節の大切なみことばの前に、この青銅のヘビの話をされました。イスラエルの民は、「ヘビを取り去ってください」と願ったのに、神さまは青銅のヘビを見上げるという方法で民を救われました。イエスさまを信仰をもって見上げるだけ(信じるだけ)で救われることは、神さまの方法なのです。

※青銅のヘビに救いと癒しのチカラがあったわけではありません。ヘビを偶像化したり、「金の子牛」と混同しないように注意しましょう。民を死から救い、毒を癒した力は、金属で作った蛇ではなく、神さまご自身にあるのです。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1) イエスさまを見上げて救われよう！

神さまは、私たちを愛してくださっています。私たちは、罪を犯してしまいます。その報いは死です。でも、神さまは、だれの命も滅びてほしくない、そのために、イエスさまを身代わりとして、十字架にかけてくださいました。私たちは、イエスさまを信仰をもって見上げるだけ(信じるだけ)で、罪から救われるのです。心も癒されます。これ以外に方法はないのです。神さまは、あなたのことを、そのひとり子の命を与えるほどに大切に思っているのです。

例2) いつも与えられている「マナ＝みことば」に感謝しよう。

イスラエルの民にマナが与えられていたように、みなさんには、「命のパン」であるみことばがいつも与えられています。いつも感謝して食べていますか？「もう飽きた」とか「つまらない」と文句や不満を言っていないですか？みことばが与えられていることに感謝しよう。礼拝のメッセージやディボーションで、喜んで命のパンを食べよう。暗唱聖句をしよう。よい地に落ちた種は、100倍祝福されます！